

## 第 5 回情報連携基盤技術WG 意見書

2011年6月17日

情報連携基盤技術WG 構成員 中上 昇一

表題の件につきまして、下記の通り意見を申し上げます。

## 1. ビジョン設定における時間軸の整理について

行政の情報化や IT 政策に関わる立場として、政府機関間の情報連携に関して、関係者が 1 つの共通モデルをベースに技術要素を議論できるところまで深まってきたのは、大変感慨深く思います。

当面整備すべき情報転送の実現に向けては、引き続き全体整合をみながら確実に進めるものと考えます。一方で、2015 に目指している「現状の業務をこの基盤にどうのせるか」という観点だけでなく、その先の「行政機関が個人の情報を連携できる基盤を使って、どのような制度・実務を作り込んでいくか」についても、IT 政策の将来像として検討すべきものと思われま

## 2. 技術要素の整理について

今回 ID 連携の方式（案）として 5 つの案が、またデータ交換の方式として 2 つの案が、それぞれ提示されました。技術的な観点では、ID 連携については当方より提出資料の通り、テーブル方式ではテーブル規模と求める性能に応じてそれなりのコストが発生するものと考えます。

一方で、政府として新たに整備する社会基盤として、「より効率的」なだけでなく、第三者機関の設置等の議論と合わせて「国家管理への懸念」をどう打ち消すかといった、社会的な受容性を重視する姿勢も重要ではないでしょうか。

その際、速やかな合意形成を実現して行くため、わかりやすい、説明しやすい役割分担の整理等も重要ではないかと考えます。

データ交換の方式において、センタ方式はセンタの監督、監査という説明をしやすいのに対して、チケット方式は許可通知とデータ転送が分離されるため、監督、監査という説明がわかりにくいものと思われま

## 3. 行政サービスと「番号」について

座長代理のペーパーにもあるように、特定対象者向けの行政サービスは、対象者の属性の変更（明示的なイベント発生や経年、到達年等）をトリガーに行われるものが現状では多いのでしょうか。申請主義からの脱却、行政機関間での高度な情報連携による自動的なサービス提供については、目指すべきビジョンとして掲げる可能性はありますが、「番号」制度や連携基盤の定着を見ながら検討を進めていくべきテーマと考えています。

#### 4. 扶養や代理について

今回扶養等に関する問題提起がありました。これらは、情報連携基盤ではなく、行政情報の電子化推進上のそもそもの検討テーマなんだろうと考えます。ITの高度な活用、行政のわかりやすさ、効率的で有効性の高い電子政府を進めるためにも、扶養や代理に関する制度感の整合性や相続等に関わる情報の電子的表現の標準化等については別途検討を進めて頂きたいと思います。

#### 5. アクセスログと監査について

アクセスログについて、マイポータルでの閲覧については議論されていますが、もう一方の第三者機関による連携の監視、監査のあり方についても、方向性を打ち出すべきと考えます。一般的な運用範囲であれば問題ないと考えていますが、数年に渡るログを常時画面でチェック可能等にする場合、ログの保管領域や確実な保全への対応が必要になる等、監視、監査への対応が、システムへの大きなインパクトを与えうるためです。

第三者機関そのもののあり方や体制に関わると思われますので、あわせて監視、監査のあり方についてもご検討頂きたいと考えています。

以上